

## 麻しん・風しんの 予防接種対象が拡大

### 麻しんの流行に注意！

昨年、春から夏にかけて10代から20代の方を中心に麻しん（はしか）が大流行しました。なぜ、このような流行が起きたのかというと、10代から20代の方たちの中には、麻しんの予防接種を受けていない方がいたからです。

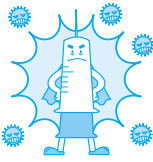
さらに、麻しんの患者数が減ったことで麻しんウイルスにさらされる機会が減り、自然に免疫を得る機会も少なくなりました。そのため、幼少時にワクチンを接種した現在の10代から20代の方は免疫が強化されず、時間の経過とともに免疫が徐々に弱まってきているのも原因の一つと考えられます。

### 予防接種の対象が拡大

今回の麻しんの流行を受けて、厚生労働省では、2012年の麻しん排除を目標に「麻しん排除計画」を策定しました。平成20年4月から、5年間の期限付きで、麻しん・風しんの予防接種の対象を拡大し、中学1年生、高校3年生相当世代の方も無料で受けられるようになります。

予防接種を受けるには、市から送付された受診票が必要です。受診票がなく、予防接種を受けた場合は、自己負担となりますので、ご注意ください。

対象の方には順次、お知らせしますので、忘れずに予防接種を受けてください。



## 平成20年度の 麻しん・風しんの無料予防接種対象

第1期 1歳以上2歳未満

第2期 小学校就学前の1年間  
(平成14年4月2日～平成15年4月1日生まれ)

第3期 中学1年生 ( )  
(平成7年4月2日～平成8年4月1日生まれ)

第4期 高校3年生相当世代 ( )  
(平成2年4月2日～平成3年4月1日生まれ)

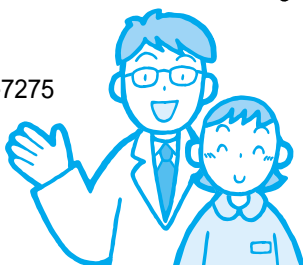
( )平成20年度から24年度までは、中学1年生と高校3年生相当世代の方も無料で麻しん・風しんの予防接種を行います。第3・4期の皆さんには、4月中旬に受診票を送ります。

今までに麻しん・風しんのどちらかにかかったことがある方も、予防接種を受ける対象になります。

妊娠している可能性がある方は、予防接種を受けることができません。接種後2か月は、妊娠を控えてください。

ご不明な点などは、健康づくり政策課健康指導1係までお問い合わせください。

問 健康づくり政策課  
健康指導1係 ☎42-7275



### 麻しんは、どんな病気？

麻しんは「はしか」とも呼ばれ、麻しんウイルスの感染によって起こる急性熱性の感染症です。

症状は、感染の約10日後に、38 程度の発熱や風邪症状が始まり、2～3日発熱が続いた後、39 以上の高熱とともに発疹が現れます。全身の免疫力が低下し、ほかの感染症に感染しやすくなります。そのため、肺炎、中耳炎などを併発しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎を発症するといわれています。

最近では、一度ワクチン接種を受けた方の中から典型的でない麻しん（修飾麻しん）の症状が現れることがあります。麻しんの症状の一つ一つが軽症だったり、症状の一部を欠いたりすることが多く、全体として症状が軽いため、麻しんと診断されず、感染が広がる場合もあります。

### どうやって感染するの？

人から人への空気感染のほか、患者のせきやくしゃみを吸い込むこと（飛沫感染）によって感染が広まります。

非常に感染力が強く、免疫を持っていない方が感染すると、ほぼ100%発症します。麻しん患者1人から免疫を持つていない人15～20人に感染させるくらいの感染力があります。

### 治療法や予防法はあるの？

感染した場合、特別な治療法はなく、症状を楽にする治療（対処療法）が行われます。合併症があればそれに応じた治療が行われます。

麻しんの予防には、予防接種が一番効果的です。また、麻しん患者と接触した場合でも、3日以内に予防接種を打つことで発症を防止できる可能性があります。